

次世代リーダーの育成



3班		
上長畝区	北	秀孝
木部新保区	廣部	義治
春日野区	村上	哲人

3班は次世代のリーダー育成について話し合いました。

地域の課題・可能性・アクションプラン

課題

- ・考え方の多様化
- ・高齢化
- ・電子化
- ・災害時の不安
- ・隣近所との関係性の希薄化
- ・家族間での世代交代



可能性

- ・小グループの活動から！
- ・イベント参加者が企画を！
- ・若者、子どもも運営に！
- ・区民は課題を感じている
- ・動いてくれる人はいる
- ・きっかけさえあれば
- ・年長者も元気



プラン

- ①新たなメンバーの参画
- ②区民の考え方の多様性に寄りそい自治会の信頼度UPへ
- ③現役世代が緩やかに関われる仕組み作り

地域にはこちらにあるような様々な問題・課題がありますが、まだまだ次世代を担うスキルを持った人たちが必ずいます。これらを踏まえ3つのアクションプランを考えました。

地域の問題・課題

地域福祉関係

- 区民の**考え方が多様化**し、行事の全員参加が難しい
- 一人暮らし高齢者の増加
- 活動団体（サロン運営など）の高齢化による活動の停滞

防災・防犯関係

- 情報伝達方法として**電子化**が進んでいない
- 区民を把握しきれず、災害時の安否確認が不安
- 通学路の防犯性、空き家、外国人の対応（ごみ・騒音）

人材・担い手関係

- 隣近所との**関係性の希薄化**
- **家族間で世代交代ができていない**
- 世代交代を年長者が押し付けてくる
- 年長者が口出ししてくる

まず一つ目に考え方の多様化や高齢化などから区の行事への参加が少なくなったりして活動が停滞しています。

二つ目に、回覧板などの情報伝達の電子化が進んでおらず、世帯情報などのアンケートをとっても返事がなかったりして区民の状況が把握できず、防災や防犯の点でも不安があります。

三つ目に隣近所との関係が薄くなったり、家族間での世代交代ができていないために、次の世代を担うべき20-50代が区の役員や班長などになっていないなどの問題があります。

地域の可能性

地域福祉関係

- **小グループの活動から**始めてみてはどうか
- サロン計画を参加者全員で作成したり、福祉委員、若者、子どもが運営に関われるのではないか

防災・防犯関係

- **住民一覧**を有事の時や見守り活動にも活用可能か
- 声をあげる勇気がないだけ、**区民は課題を感じてはいる**
- **声をかければ**動いてくれる人はいる

人材・担い手関係

- **きっかけさえあれば**、出てきてくれる人はいる
- **まだまだ動ける**年長者もいるので世代交代を念頭に置き、**役割分担**をしてはどうか

一方で、地域には可能性もたくさんあります。まず地域活動を少人数のグループから始めてみてはどうでしょうか。

大人数だと集まりにくく、活動も行いにくいですが、3-4人の少人数であれば集まりやすく、目的に合わせた気の合う仲間が集まれるのではないかと思います。また、住民一覧を作成し活用するなどすれば問題が生じた際にも確認がしやすいのではないのでしょうか。

また、区内にはいろんな所に課題を感じている区民がいます。そうした声に耳を傾ければおのずと人は集まってくるはずです。

頼れば、きっかけさえあれば、やってくれる人はいるはずです。

世代交代がすべてではなく、年長者も若者もそれぞれの得意を見極めて役割を分担すればよいと思います。

未来像

コミュニケーションがとりやすい風土を作り、
常にみんなで情報共有を....!!



未来像として我々が考えたことは、課題解決に近道はない。可能性を生かす、実現させるのも簡単ではない等を考えると課題を皆さんと共有すること、お互いがお互いを知ることが大事だと思います。すなわち、「コミュニケーションがとりやすい風土作り、常にみんなで情報共有をする環境づくり」をすることではないかと思います。

プラン① 新たなメンバーの参画

参加者が企画に参加することでWin-Winの関係に

- ・役員に任せるだけではなく、参加者全員で企画したり、若者、子ども、などにも企画に参加してもらう
- ・祭りの一部の企画を若者に任せる
例) 春日野区：子ども会OB・OG（中高生）が夜店を出店し大盛況！

※中高生同士も久々の再会で盛り上がり、地域でのよい思い出となり、ふるさと愛が育まれる

- ・〇〇の会など、少人数で気楽に参加できるグループ作り

プラン①として新たなメンバーの参画が必要だと思います。例えばその行事の参加者が企画に参加することで、参加者は自分のやりたいことの希望が叶い、役員は負担が軽減し、Win-Winの関係になると思います。

その一例として、祭り的一部分を若者に任せるという事もあげられます。

私のいる春日野区では今年のまつりに初めて子供会のOBOGである中高生が企画に参加し、夜店を出店しました。

子どもが喜ぶ内容を知っているので小学生は楽しみ、会場には例年は参加が少ない中高生が大勢来てくれ、祭りは大いに盛り上がりました。参加した中高生同士も久しぶりの再会で話に花が咲き、そうやって関係性を保つことで地域愛が生じ、将来を担う人材が育成できるのではないかと思います。

プラン② 区民の考え方の多様性に寄りそう

自治会の信頼度アップへ

- ・ 役員だけでなく、場面に応じて協力頂ける人やリーダーシップを取ってもらえる人を複数人つくっておく **区長が全部を抱えない**

※問題があったらすぐに手を打つことが大事！
区長が信頼する人からの信頼をアップさせる

- ・ 住民一覧作成の際の、個人情報のおし方を選択性にする
① 区長にオープンにする ② 緊急時のみオープンにする など
- ・ 防災、防犯に限らず生活していくうえで、気になっていることを区民にアンケート調査し、結果を元に協力者を求める

プラン②は、区民の考え方の多様性に寄りそうことです。区長が全部を背負うのではなく、場面、テーマに応じていろいろな人たちの協力を仰ぐような関係性を作っていく、その中から次のリーダーたちを見つけられるのではないかと思います。また、区民の皆さんの情報の管理も多様性を帯びているので、区民の思いに応じた情報の持ち方もこれに寄与するのではないかと思います。ただ、区民の中でいろいろな課題を持っていることを認識している方は多くいらっしゃいます。ただ発言がされていない、表に出て来ないということもあるので、やはりきちんとアンケートを取るなり、聞いた意見は確実に推進することをやっていけば、自治会の信頼度のアップにつながるのではないかなと思います。

プラン③ 現役世代が緩やかに関われる仕組み作り

見習い期間を作り、現役世代に無理させず区運営にも関わってもらおう

- ・まずは、部会長などから

※まわりから信頼され、ついてきてくれる人ができる！

- ・現役世代にどんなことならできるかアンケート調査

- ・子世代が出てこれるルールづくり

例) 奉仕作業は親世代、イベント企画は子世代 など

- ・得意分野や能力のある人に協力してもらおう

※日頃からの付き合い、関わりが大切！

例) 区のデジタル化推進・同世代への行事参加の声かけ
パソコン作業・案内チラシのデザイン など

最後にプラン③ということで現役世代が緩やかに関われる仕組み作りが必要だと思えます。

すぐに役員を担うのではなく、見習い期間を作る事により、現役世代に無理はさせないで、区の運営に関わってもらってはどうかと考えました。

まずは、役員だけではなく部会長などをしてもらう事によって、その実績からまわりの方に信頼され、ついてきてくれる人ができるはずです。

また、子世代が出てこれるルールづくりというところで、家族内で世代交代がされておらず、高齢の親世代がずっと区の活動に参加している世帯も多いです。

100%世代交代は難しいので、役割分担をして参加してもらうような事を考える事も大事だと思えます。

最後に、区内には様々な特技を持った方がいます。PC操作、人集めなど得意な人に頼って助けてもらうこともひとつだと思います。

それには、日ごろからの付き合いや関わりが大切になります。

我々のプランをまとめますと、まずは活動の裾野を広げ参画を促すこと、次の中からリーダー候補を発掘すること、そして負担を軽減する仕組みを準備することで、

次世代リーダーの活躍しやすい環境づくりを進めたいと考えます。

自治会WSに参加して感じたこと

◆木部新保区 廣部 義治

- ・自分の区のみしか知らなかったが、他の区の話聞いて、それぞれが苦勞しながら区長業務をこなしていることが分かり、これからの区長業務に参考にしながら業務にあたっていきたい
- ・問題点を役員のみで処理するのではなく、情報を共有してみんなに投げかけることが大事

◆春日野区 村上 哲人

様々な地区の方のお話を聞いて区外の状況・情報を聞くことができた。今後、区の状況が変わった際の参考になった。抱えている問題は同じようなことが多い。ケーススタディとして市として蓄積していけば他の区でも共有できる。

自治会WSに参加して感じたこと

◆上長畝区 北 秀孝

- ・各地域、同じような課題を持っていること再認識（高齢化、一人暮らし、外国人…）
- ・積極的な行動を通じ各部会長（リーダー格）と関わり 共有を図る
- ・困りごとの迅速な対応 … 結果として信頼性アップ

